

衛生上の問題を回避し 有意義な飼育活動を行うために

公益社団法人 東京都獣医師会

子どもとのふれ合いに適し管理しやすい動物を、少なめの頭数で、よく掃除されている場所で飼育してください。動物に触れる前及び後には手を洗うなど、常識的な接触を心がけてください。過去には、児童がミドリガメを口に入れたり、飼育している水槽の水を飲んでしまった事例があります。は虫類には、食中毒を起こす菌を持っている個体もあります。

飼育舎

掃除がし易いと短時間で掃除が終わり、ふれあいの時間が持てます。
児童に身近な場所（教室など）で飼育すると、大きい効果が期待されます。
土の床は問題が多いため、コンクリートの床にして、巣箱を入れてください。

動物

世話が容易で、愛情の交流ができるチャボ及びウサギ、モルモット、ゴールデンハムスターなどをお勧めします。
野生動物及び輸入動物は、衛生、馴化及び法律上の問題がありますので避けてください。
飼育する数を決めて増やさない方が、管理が容易です。（例えば、3クラスある学年なら3匹の飼育でも十分に効果が期待できます）
頭数が多いと、掃除が大変になり、不潔になる例が多く見られます。

導入

導入前に獣医師にご相談下さい。獣医師による健康チェックなど必要な処置後、2週間別飼いで健康を確かめてから飼育舎に導入してください。
新しく導入する動物は、ケージ飼いのまま飼育舎に入れ、先住動物と網越しに生活させてください。お互いに気にしなくなったら一緒にさせてください。
モルモットであれば、（公財）東京動物園協会から譲り受けることができます。本会事務局までお問い合わせ下さい。

児童との触れ合わせかた

獣医師を招き、接し方などを指導してもらってください。
児童が、動物の気持ちを気に掛け、そして動物が安心する抱き方を覚えると、動物に関心と愛情が湧いてきます。

日常の注意

自分で掃除することも、餌をとることもできない動物の気持ちを考えさせてください。
動物に病気をうつす、また動物から病気をもらう事のないように、世話の前後は、必ず手を洗うようにしてください。
朝夕2度、糞尿、食べ残しを掃除して餌と水を与えてください。
人は日に3度食べることを児童に話し、思いやりと栄養摂取の大切さを伝えてください。
命は繊細で、条件が合わないと直ぐに死んでしまうこと、死ぬことは大変なことだと児童に伝えるため、学校全体で飼育を支えてください。
命を守るために、暑さ寒さに気をつけることを伝えてください。
夏は日陰を作り、風通しを良くし、冬は木製またはダンボール製の箱を入れて防寒させてください。

* 学校担当の獣医師あるいは、最寄りの会員動物病院が不明の場合は
本会事務局にお問い合わせください。（電話03-3475-1701）